令和2年度　江戸川区立平井西小学校　学校関係者評価　報告書

学校教育目標	・やさしい心 ・じょうぶな体 ・かんがえる力	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「明日も楽しみ、学校大好き」と言える「笑顔の学校」 ・「進んであいさつする子　命を大切にする子　思いやりのある子」「外で元気に遊ぶ子　よく食べよく眠る子」「自ら学び、考え、表現する子」 ・創造的で協働する教職員集団「チーム平井西」
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 若手教員育成のために「校内OJT研修会」を設け、全教員が講師を務めることで、研鑽を積むことができた。また、学習・生活面などで平井西スタンダードを確立し、具体的に実践してきた。 ＜課題＞ 特別支援教育をどのように推進するか。個人での対応ではなく、組織として対応できるように、特別支援教育専門員やSC・SSWとも連携し、エンカレッジルームの活用や個別の支援計画などの確立が必要。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・小中連携の実施。 ・教員研修の実施。	・小6が中学校訪問をしての児童生徒交流を、年に1回以上実施。	C	B	○外国語教育を中心に、中学校につながる取り組みを授業実践及び教員向けの研修を進めることができた。 ●小・中相互の交流はできなかった。（新型コロナ関連）	B	○HPの学校日記を通して、外国語教育を中心に、中学校につながる活動に取り組んでいることがうかがえる。	・HP等を活用し、地域・関係者にも積極的な情報発信を進める。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・校内研修3回の実施。 ・情報リーダーを中心とした研修の実施。	・教員の研修参加率100%。 ・算数のデジタル教科書活用率100%。	A	A	○OJT研修を活用して、最新のICT機器の活用などを広げることができた。 ○ICT機器を活用した授業が浸透してきた。	B	・以前に比べて、パソコンなどの電子機器を使用している様子が伝わるが、詳細は分からない。	・ICT機器を使用した授業を、保護者・地域にも積極的に発信する。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・あおぎり学級と連携した研修会の実施。 ・校内委員会計画の充実。 ・特別支援教育専門員との連携の充実。	・年間を通して、週に1度のあおぎり学級との情報の共有。 ・週に1度の対象児童への支援。	A	B	○計画的に校内委員会をもち、情報の共有を図った。 ●外部に向けて、特別支援教育についての理解を深めていく必要がある。	B	・特別支援教育については、具体的な中身が見えづらいと感じた。そのため、HPで情報が更新されることで理解が進んだ。	・現状の取組を続け、特別支援教育について、今後も随時情報を発信する。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・補習年35回以上の実施。 ・計算タイムを活用したベーシックドリルの実施。	・診断シートの平均正答率80%。 ・学年の漢字・計算の正答率90%以上の児童を90%以上。	B	B	○補習や計算タイムは計画的に実施できた。 ●D層に入る児童の基礎学力向上のための手立てをもっと考える必要がある。	A	・HPの学校日記を通して、授業が充実しており、子供たちの生き生きとした表情が伝わってきた。	・現状の学習環境を継続いく中で、個に応じた手立てを計画的に検討していく。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	・年2回の読書月間。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善。	・学校図書館を活用した調べ学習を進んでできる児童80%以上。 ・1年間の読書量5・6年生で30冊以上。	A	B	○学校司書教諭を中心に、環境の改善を進めている。 ●読書科の推進のために、どのような活用が考えられるか検討が必要である。	B	・学校図書館の様子や活動を知る機会がなかなかないので、活用まではわからない。本が好きな子は多い。	・学校図書館の活用についての情報発信を積極的に行う。 ・学校図書館を活用している場面について、HP等で積極的に紹介する。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・運動遊び、持久走タイムなどの充実。 ・なわとび月間の実施。長縄集会の実施	・運動遊びの実施。 ・長縄集会に向けてクラス目標の設定。 ・運動が好きな児童90%以上。	A	A	○業間体育の取組は、計画的に実施した。 ○保護者アンケートでもマイナスな意見は見られず、取組が浸透してきている。	A	・HPを通して、持久走、縄跳び等、熱心な取り組の様子がうかがえる。 ・アンケートも好意的な意見ばかりだった。	・現状の取組を継続していく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・学年ごとのオリ・パラ授業の実施。 ・オリ・パラ掲示板の充実。	・オリ・パラ選手を招いての授業を、各学年1回以上実施。 ・たてわり班活動の実施。	A	B	○オリパラ選手を迎えての授業計画を立て、実施している。 ●たてわり兄弟学年での活動のみとなった。	A	・オリパラ関連の授業のことを、楽しそうに話していた。選手との交流が良い。	・現状の取組を続けていく。 ・今後の状況により、たてわり班での活動内容を検討していく。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	・日常からの「クラスルームイングリッシュ」の積極的な活用 ・授業で使える歌などの校内研修の実施	・楽しく外国語活動ができる児童を90%以上。	A	A	○担任主導の外国語授業が定着してきた。 ○多くの児童が意欲的に取り組めている。 ●ALTとの連携はさらに深める必要がある。	A	・HPの様子から、外国語の授業に対して生き生きと取り組んでいる様子が伝わってくる。	・今年度の研究の成果と課題を、次年度に生かしていく。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・週に1度の生活指導夕会での、課題のある児童に対する共通理解。 ・QUテストを年に1度実施。 ・生活指導連絡協議会での、地域の学校同士の情報交換。	・不登校、いじめ問題を0% ・QUテスト、居心地のよい学級とする児童90%以上。	A	B	○昨年度より計画的に対応ができている。 ●不登校傾向やの児童に対する手立てを考えるうえで、SC等との情報交換がもっと必要。	A	・先生方が連携して取り組んでいる様子が伝わってきた。	・個別の支援も大切につつ、現状の学習環境を続けていく。